



『産直たまご』のふるさと 神奈川中央養鶏農業協同組合

秋の神奈川中央養鶏バスツアー



9月18日(日)神奈川中央養鶏農業協同組合のある、愛甲郡愛川町へ、総勢21組47名の大所帯で、バスツアーに行ってきました。

遠そうで意外と近かったこの場所。A・Bの2グループに分かれて、鶏舎の見学と、GPセンター(卵のパックつめ工場)の見学をしました。



残念ながら、衛生管理上、鶏舎はバスの中からの見学でしたが、生産者の方がバスに同乗してくださり、養鶏場内を案内しながら、たくさんの質問に答えてくださいました。飛び交う質問の数に、組合員のみなさんの、鶏の生育環境に関する関心の高さを感じました。次に、スイーツの試食で空腹感を刺激されつつ、GPセンターの見学です。卵に人の手が触れることなく衛生的に、かつ高い生産性を生み出す、



オートメーション化された工場内の様子におと子どもも強い印象が残ったようです。

その後、そうめんを食べながらの昼食交流会では、『産直たまご』の温泉卵とそうめんの組み合わせに、おいしい!! の声。食事をしながらの交流は、質問しやすく、各テーブルで話に花が咲いているようでした。交流会での質問コーナーでは、「卵の旬は？」の子どもならではの質問に、「旬というものはないけれど、若い鶏が生んだ卵の方がおいしい気がします」…なんて、やりとりも。見学から交流まで、生産者のみなさんとたくさんお話できた有意義なツアーでした。(HM)



活動組員リーダー研修に行ってきました！

賀川豊彦記念松沢資料館



10月26日(水)生協の父と呼ばれる賀川豊彦の偉大な功績を学び、生協について考えてきました。

賀川は両親と早くに死に別れるというあまり恵まれているとは言えない幼少期でしたが、やさしい宣教師との出会いにより、世の中の



ために尽くしたいという気持ちが芽生え、生涯をその活動に注いだ人です。互助による生活向上を目的とし、搾取のない計画された経済をめざし、協同組合を立ち上げたそうです。その考え方は行き詰ったように感じられる資本主義、共産主義にかわる第三の道として、今の社会に一石を投じるものだという資料館の方のお話でした。生協について知るいい機会でした。(CN)



大窪センター長のつぶやき

いつもお世話になっております。

横須賀センター長の大窪悠介と申します。

パルシステム神奈川ゆめコープでは、神奈川県と「地域見守り活動に関する協定」を結んでおります。

毎年、活動により県民の命が救われた活動、また、継続的に地域見守り活動に協力した事業者等に対して、感謝状が贈呈されております。

今年は横須賀センター・横浜北センター・藤沢センターの3センターが11月2日に授与されました。

今後とも、継続的に地域見守り活動を行ってまいります。

感謝状贈呈時の写真
授与されました
黒岩県知事より



エコクラフト®でかご作り 参加者募集！

2017年1月27日

(金曜日)10:00~



玉縄学習センター分室にて行います。

短時間なので小さいものしか作れませんが、楽しくおしゃべりしながらやってみませんか？ 環境にやさしい素材を活用しています！

パルシステムのお菓子付き♥

詳しくは weekly どりーむぺいじの来週号をご覧くださいね。



このマークがあるびんは、生協に返してね！

★ 10月リユースびん回収率★

供給量：5,359本 回収量：4,732本 回収率 88.3%

編集後記：いよいよ2017年がやってきますね。でも私には2017年って、すでに馴染み深いです。賞味期限表示で(笑)。

こんな感覚って私だけでしょうか。。。 (SH)